

審査経過及び講評

平成24年8月8日

滝沢村交流拠点複合施設等設計業務プロポーザル審査委員会

委員長 狩野 徹

一次審査について

応募された技術提案書について、審査委員会で検討した各項目それぞれA～Eの5段階評価により記入する方法で採点した。なお、A評価については数の上限を設けた。

プロポーザルの審査が初めての委員もいたが、滝沢村交流拠点複合施設基本計画書の策定に係わった委員であり、また村民としての視点があり、学識経験者も含め幅広い視点での審査が可能であることを事前の打ち合わせで確認した。

一次審査では、公開ヒアリング候補者5者程度を選定することとし、総合得点だけでなく、A評価の数、あるいはD、E評価の数も参考にすることを事前に確認していた。評価基準において、資格・経験の評価については、客観的・機械的に採点ができることから、事務局で採点を行い、実績・提案内容の評価については、審査委員が行った。

配点は、資格・経験評価33点、実績・提案内容評価127点、計160点満点としていたが、より今回の提案を通して各者の意欲や提案力を見る狙いがあった。

採点の結果、今回の21者の平均点は109.49点で、実績・提案内容評価点は、21者の平均点83.88点、最高点99.10点となり、非常にレベルの高い競争であった。点数審査ではあったが、審査委員の持つ印象が実際の点数として反映されているかを議論により確認できたため、総合得点の上位6者を一次審査通過者とした。

一次審査の6者が決定するまでは、審査委員には会社名を伏せて審査を行った。内容的には、各者とも、優れた提案、斬新な提案が多く見られた。周辺環境との調和や複合施設としての使いやすさなどに創意と工夫が感じられ、土地の造成や配置計画の考え方、積雪時等の考え方としての歩行者動線の配慮など、今回のプロポーザル独自の課題も含め、改めてその質の高さを審査委員一同確認できた。

二次審査について

二次審査は、午前中に公開ヒアリング、午後から別室で最終審査という形で行われた。

公開ヒアリングでは、まず発表者が自案についての説明を行い、その後、審査委員が質問することで進めた。

実際の設計の進め方、提案内容およびその意図などについて、審査委員全員がそれぞれの立場で時間の許す限り質問を行ったが、発表者は、本設計業務を担当する技術者としていたことから、提案内容への思いや本事業に対する情熱を直接開けたことも今後、作業を進める際の参考になった。傍聴していただいた皆さんにも今事業への関心をより高めていただいたのではないかとと思われる。

午後から場所を変えて最終審査を行った。

本プロポーザルは、滝沢村の発展にとっても大きな位置を占めるものであり、審査委員全員による活発な議論となるよう努めた。一次審査で選ばれた者であり、どの者になっても担当能力が高く、ま

た、提案内容は、基本計画書の意図を基に、方向性は違ってもおのおのの提案内容にそれぞれの合理性が感じられ、評価すべきポイントが多岐にわたり議論が繰り返された。

環境配慮や、コスト削減、工期短縮などの提案課題も、各者の提案には今の時代要求に応える鋭い洞察が感じられた。

土地利用については、今回の敷地条件と動線条件の難しさを改めて確認する結果となったが、駐車場の配置等については、各提案ともそれぞれに課題が確認され、今回のプロポーザルを踏まえ、設計の中で今後検討していただきたい。

その中で、最優秀、優秀については、全体計画のコンセプトの提案内容としての大屋根が守りもたらず複合的メリット、図書館の複合施設内での位置付けと視点などの建築計画的提案内容、材料としての木材に対する具体的提案内容などから、設計者として選んだものであり、総合的に優れていると判断した三菱地所設計を最優秀者に、関・空間設計を優秀とした。

終わりに、滝沢村にとってこのような設計プロポーザルは初めての経験であったが、各提案は、3施設の配置や、周辺景観、進入道路、80m四方の防災広場などの条件を加味しながら、それぞれに、意欲的、示唆に富んだご提案書をいただいた。本村のために貴重な時間や労力を掛け、真摯にご努力いただいた、関係者のみなさまに感謝を申し上げ、講評といたします。